

平和の尊さ 朗読に込め

戦争児童文学 特別演奏会 管弦楽が情景表現

一戸

室内管弦楽と朗読による「マヤの一生」特別演奏会は10日、一戸町一戸の町コミュニティセンターで開かれた。住民ら約200人が迫力ある生演奏と戦争児童文学作品の朗読に浸り、平和の大切さを胸に刻んだ。

「マヤの一生」は児童文学作家の椋鳩十せむぎとむの代表作で、犬と子どもの交流を通じて戦争の痛ましさや命の尊さを訴える内容。町合併60周年、同センター開館15周年の記念事業として、いちのへ文化・芸術NPO(高橋幹子代表)が主催し



朗読する中村純子さん(右)と生演奏を披露したジュエル・ミュージックの管弦楽団

た。
同町西法寺の中村純子さん(60)が感情豊かな朗読で観衆を魅了。町内の小中学校に通った高橋淳さん(53)が代表を務める音楽講師派遣業ジュエル・ミュージック(東京都)の管弦楽団が、美しいメロディーで作品の情景を表現した。

同町西法寺の工藤真喜子さん(68)は「自然と涙があふれた。戦争は罪のないものの命を奪うことを子どもたちにも伝えたい」と出演者に拍手を送った。